

海外感染症流行等に関する情報提供 (29-6)

平成 29 年 1 月 24 日

要約

- 1) フィリピンにおける狂犬病罹患犬による咬傷報告 (Outbreak News Today 他)
- 2) 太平洋諸島におけるデング熱の流行状況 (WHO)
- 3) アンゴラにおけるジカウイルス感染症患者の続報 (WHO)
- 4) アメリカにおける飼育ラットからのソウルウイルス感染症例 (Healty Day News)

本文

1) セブ島の地元報道によりますと、1 月 21 日土曜日に観光地であるフィリピンのセブ島 マンダウエ市で流涎している野犬が 21 人に咬傷を負わせたとのこと。イヌは 22 日の深夜に捕獲され、数時間後に死亡したとのこと。受傷者は 2 箇所の治療施設において加療されていますが、「破傷風のワクチンをうけたのみ」、「狂犬病の曝露後接種 (PEP) のためのワクチンがない」、「保健センターは平日しか開いておらず PEP が遅れる」などの情報が流れています。保健省の報告によりますと 2015 年、フィリピンでは狂犬病で 226 人が死亡しているとのこと。

2) 太平洋諸島におけるデング熱の流行状況です。

①パラオ：2017 年 1 月 17 日現在、デングⅡ型のアウトブレイクが確認されています。昨年の 10 月 10 日以来の患者数は 51 人で、41%の患者が入院治療を受けています。

②バヌアツ：2017 年 1 月 19 日現在、デングⅡ型のアウトブレイクが継続しており、昨年の 11 月以来 822 人の患者が報告されています。過去 3 週間における患者数は平均して毎週 200 人となっています。保健省の発表では 1 月 12 日までの患者数は 607 人でそのうち 323 人が迅速診断検査キットによるチェックをうけ、91 人が NS-1 或いは IgM が陽性であったとのこと。

③ニューカレドニア：昨年 9 月 1 日から 2017 年 1 月 13 日現在迄で、231 人の患者が報告されており、週毎の患者数は増加傾向です。デングⅠ型が確定されています。

④ソロモン諸島：2017 年 1 月 8 日現在、デングⅡ型が流行しています。週報における患者数は減少傾向ですがこれは定点となっている部所からの報告数の減少によるものです。2017 年の第 1 週で 48 人が政府指定病院に入院しており、19 人 (40%) は小児です。

3) アンゴラにおけるジカウイルス感染症患者 (既報：29-2) の続報です。

世界保健機関は 20 日、アンゴラにおける 2 人のジカウイルス感染症患者の詳細について公表しました。1 人目の患者はアンゴラからフランスへ帰還した旅行者で、臨床症状および、血清検査においてジカウイルス感染症に合致する徴候がありました。その後、アンゴラにおいて 2 番目となる患者が、同感染症に合致する症候を呈して、昨年 12 月下旬に 2 回のポリメラーゼ連鎖反応 (PCR) 法により陽性であることが確認されました。現在、検体はシーケンシングと裏付け検査を施行するために、標準検査機関に送付されているとのこと。また、この患者には最近の渡航歴がなかったと報告されています。

4) アメリカの連邦保健当局は 20 日、同国イリノイ州とウィスコンシン州のラットを飼育している施設の従業員 8 人が、同国では一般的に流行していないウイルス（ソウルウイルス）に感染したことを報告しました。アメリカ疾病予防管理センター（CDC）によりますと、同国では野生ラットにおける同ウイルス流行はありましたが、飼育ラットと関連する同ウイルスの流行は初めてのことです。ソウルウイルスはげっ歯動物を宿主とするハンタウイルス属の一つで、世界中のノルウェーラットがウイルスを保有していますが、そのほとんどは不顕性で病原性を示すことはありません。感染ラットの体液（血液、唾液、尿）への曝露や咬傷で人に感染しますが、人や他の飼育動物からは感染しません。ヒトが感染した場合、発熱、激しい頭痛、腹背部痛、悪寒、霧視、目の充血や発疹が出現し、ほとんどの場合は回復します。稀に腎疾患を引き起こすこともあります。CDC は州や地方の保健当局と協力し、発生源の特定や他への影響について調査しています。また、最近飼育ラットを購入した人に対して上記に示した症状が出現した場合はすぐに医療機関へ連絡するように呼びかけています。感染予防策として、げっ歯動物に触れた場合は流水と石けんで手洗いすること、げっ歯動物の飼育環境を清潔に保ち台所や浴室で掃除などの世話をしないこと、獣医師による定期的な診察を受けること、見慣れないげっ歯動物には注意を払うようにとしています。

神戸検疫所、関西空港検疫所、大阪検疫所